

Library Volunteer

子どもたちが本と出会う きっかけを作りたい

図書ボランティアで絵本の読み聞かせ
活動が生活の一部に



久代小学校図書ボランティア 田中直美さん

きっかけは
本が好きだったこと

「読み聞かせを始めて、かれこれ17年になります。子どもが小学校を卒業した後も、地域で役に立っているのであればと思い、活動を続けています」

久代小学校で図書ボランティアをしている田中直美さん。本が好きだったことが、活動を始めるきっかけになったと話します。

「娘が幼稚園児の時に、保護者による絵本の読み聞かせの会が始まりました。家でもよく読み聞かせていたので、これなら自分でもできるかなと思って、参加することにしました。その後、子どもが小学校に入る時に、図書ボランティアを手伝ってほしいと声を掛けてもらったんです」

小学校での読み聞かせの活動は、毎週月曜日。朝の学習の時間にメンバーが手分けして、各クラスに絵本を読み聞かせに行きます。

「久代小学校の子どもたちは、とても集中して読み聞かせを聞いてくれるんです。『また来てね』と言ってもらえるとうれしくなりますね」

川西南中学校でも図書ボランティアをしている田中さん。図書室に来る子どもを、少しでも増やしたいと話します。

「中学生になると、勉強や部活で忙しくなり、図書室から足が遠のくんです。小学校でも同じですが、本の整理や修繕以外にも、図書室に来てもらうための工夫をしています。例えば、新刊を分かりやすく紹介するコーナーを作ったり、季節ごとに図書室を飾り付けたりしています。何かを学んだり、感じたりしてもらうために、本と出会うきっかけを作りたいんです」

できる範囲で活動を継続

図書ボランティア以外に地域の子育て広場のサポートをしている田中さん。どちらの活動も、生活の一部になっていると話します。

「悩んでいるのは自分だけじゃない」「ここに来れば、話を聞いてくれたり、ヒントをくれる人がいる」と一人でも多くの親に知ってもらいたくて、子育て広場に参加しています。パートの仕事や、家事もあるので、たくさん活動はできません。ただ、子どもと関わるのは好きですし、自分のできる範囲で活動は続けたいと思っています」



炒り豆腐

優しい味わいで子どもにもおすすめ

おとな子どもも
食と育つ 保健センター
☎(758)4721

レシピ 市立保育所・こども園給食部会

- 材料 4人分
- 豚ひき肉 120g
- 豆腐 1.5丁
- タマネギ 小1個
- ニンジン 中3分の2本
- キャベツ 2~3枚
- ホウレンソウ 3株
- 油 大さじ1と3分の1
- 【調味料】砂糖（大さじ1強）、濃口しょうゆ（大さじ1と3分の1）、片栗粉（大さじ1弱。同量の水で溶いておく）
- 熱量（おとな1人分）：122kcal、塩分：0.5g

- 作り方
- ①豆腐は水切りし、つぶす。タマネギは薄切り、ニンジンとキャベツは千切り、ホウレンソウはゆがき、約2cmに切る。
- ②鍋に油をひき、豚ひき肉を炒める。豚ひき肉がほぐれてきたら、タマネギとニンジンを加えて炒める。野菜がしんなりしてきたら、キャベツ、豆腐を加えて、さらに炒める。
- ③調味料を加えて少し煮る。野菜が軟らかくなったら、水溶き片栗粉でとろみをつけ、ホウレンソウを加えて火を止める。

人権啓発シリーズ
生きる 人権推進課
☎(740)1150

「発達」は今を最大限に生きた結果

子どもが伸ばした力は
その子が生きる生活の場で生かされるもの

「発達」は子どもの権利だという人たちがいます。子どもが自分の可能性を最大限に伸ばすこと、それを「発達」というのであれば、確かにそれは大事な権利です。ただ、ここでも誤解のないよう断っておかなければなりません。子どもが発達によって伸ばした力は、試験の場ではなく、文字通りその子が生きる生活の場で使われて、生かされるものです。

人はいつも自分の身体に備わった「手持ちの力」で生きています。確かに、今日できないことが明日にはできるようになっているかもしれません。でも、はっきりしていることは、明日身につくかもしれない力で今日を生きることにはできないということ。今日は今日、この身体に身につけている力で生きるしかありません。今日できないことがあれば、できるようになるよう頑張りましょうと言われるかもしれませんが、どんなに頑張ってもできるようになるまではできません。ですから、頑張る以前のところで、人は今の自分の無力さを引き受けて生きる以外ないのです。

そうした断念の上で、今を自分の手持ちの力を使って最大限生きる。発達はその結果なのです。そこを踏んで、発達を目標に掲げたとき、「今を生きる」ことの意味が変わってしまいます。人は「発達」のために生きているのではなく、今を最大限に生きることで、その結果として発達する。その意味で、今を最大限に生きることを保証することを「発達の権利」というのなら、それはその通りです。でも、多くの人は、そこを踏んで、かえって子どもたちを苦しめていないでしょうか。

(前川西市子どもの人権オンブズパーソン 浜田寿美男)

消費生活センターだより 消費生活センター
☎(740)1167

光回線サービスの電話勧誘に注意

プラン変更だと思っていたら
全く違う会社との契約になっていた

事例1 電話とネットの料金が高くなっていることに気が付いた。問い合わせたら「別業者との契約になっていますよ」と言われた。4カ月前に「料金が安くなる」と電話がかかってきてパソコンで操作した事を思い出した。プラン変更の電話だと思っていた。解約して元の大手電話会社の契約に戻したい。(80歳代 男性)

事例2 「我が社と契約すればインターネットの通信速度が速くなり通信料は安くなる。工事不要。メールアドレスはそのまま使える。手間は一切かからない」と電話があり承諾した。届いた書面を見たら、覚えのないオプションがついていた。「現在のプロバイダの解約はご自身でお願いします。解約料が必要な場合もあります」とも書いてあった。そのような説明はなかったと思う。解約したい。(70歳代 女性)

事例のように「契約している事業者のサービス変更だと思って承したら別業者との契約になっていた」「安くなると言われたが、説明のなかったオプションが契約内容に入っていた」など、消費者が十分に理解できないうちに光回線サービス契約をしてしまったという相談が寄せられています。

NTT 東日本と NTT 西日本が光回線サービスの卸売りを開始したことで、卸売りを受けた事業者（光コラボレーション事業者）が参入。光回線にプロバイダなどを組み合わせて、サービスを販売しています。「安くなる」と勧誘されてもすぐに返事をせず、事業者名や契約内容を確認し、説明されても理解できない、必要がない場合はきっぱり断りましょう。困ったときは消費生活センターに相談してください。

市政情報

求人・募集

公民館
発表・鑑賞

スポーツ

カレンダー

セミナー

健康
中央図書館

相談の案内

高齢者
福祉

子育て

コラム

ニュース